著作権保護コンテンツ

特集

谷川俊太郎と絵本

谷川俊太郎 × 和田誠

数々の著作を持つ詩人・谷川俊太郎さんは、絵本の名手としてもおなじみです。訳詩を担当したものまで含めると、その数なんと300冊以上！〝谷川絵本〟が、これほどまで愛され、読みつがれてきたのはなぜなのでしょう。近しい人々との対談や分析をまじえながら、その魅力に迫ります。

撮影／石川正勝　取材・文／村上早苗（P4～7、10～11）

著作権保護コンテンツ

谷川俊太郎と絵本

撮影協力／絵本塾ホール

最新刊『こわくない』発売記念対談！

50年ほど前に書かれた谷川さんの詩、「こわくない」が、今秋、絵本としてよみがえりました。絵を担当したのは画家・井上洋介さん。これがコンビ3作目となるおふたりは、奇しくも1931年生まれの同い年で、中学生のときに終戦を経験しています。そこで、戦争中だった子ども時代のことを中心に、語り合っていただきました。

おばけ、先生、カミナリ、父ちゃん、そして戦争。戦時中に子ども時代を過ごしたふたりが「こわくない」に込めた思いとは？

井上　いやぁ、お久しぶりです。何年ぶりだろう？　ずいぶんお会いしていませんよね？

谷川　そうですね。本当にお久しぶりです。

井上　こうして谷川さんに会えるとはうれしいなぁ。「詩で食えるのは谷川俊太郎くらいだ」と、ずっと言われ続けてきた人ですからね。

谷川　いえいえ、詩だけじゃなく、注文されたものは何でも書いてきましたよ。とにかく妻子を養わなくちゃってね。そこは、今の人（詩人）と違うでしょうね。

井上　ぼくも同じだな。食うために一生懸命絵を描いてきた。

谷川　最近になってやっと詩を書くのが楽しくなってきちゃってね。頼まれもしないのに書いていますよ。

井上　あぁ、いいねぇ。僕も作品を自ら出版社に持っていっていましたよ。年に1回程度だけど、もう何十冊分かになっていて。それをこの前、こっそり返されました（笑）。編集者も持て余したんでしょうねぇ。それでがっかりして、あんまり描かなくなっちゃった。

谷川　えぇー、そうでしたか。他の出版社に廻しちゃえばいいのに。

井上　でもね、本になるのに2～3年かかるでしょ。そろそろ気長に待てない年齢になっているからね。

谷川　井上さん、年をとるに従ってどんどん前衛的になっていない？

井上　あぁ、そうかもしれない。

谷川　今回の『こわくない』の絵もすごくいいよね。ラフを見て、スピード感や勢いがあると感じました。

井上　詩がすごいから、触発されて、あっという間に描けちゃったんですよ。

谷川　ぼくも、絵を井上さんが描いてくれると聞いて、「それなら間違いない」と思いました。

井上　編集者によるとね、『こわくない』が谷川さんの詩だと聞いてね、ぼく、「やります！」って即答したそうですよ。覚えていないんだけど（笑）。でも、絵を描きあげて、「これはオレだ」と思ったね。同じ時代を生きたオレでなければ描けないと。「こわくない」って、よくぞ言いきってくれました。

谷川　これ、50年も前につくった詩なんですよ。子どもの歌を手がけていたころで、これもそのシリーズのひとつで。歌にするから言いきっているというのもあるんです。

井上　なるほど。

谷川　ただ、「怖い」という発想からは積極的なものは何も生まれないという気持ちはありますね。ほら、幽霊が怖いと思うと部屋の隅っこに引っ込んじゃうけど、怖くないと思えば外へ出ていける。それと同じで、地震でも原発でも「こわくない」と受け取ったほうが、あとにつながるというか……。要は腹の据え方ですよね。生きていくことは一種の冒険

著作権保護コンテンツ

この人にあれもこれも

こんにちは！絵本作家さん

PROFILE
まつなり・まりこ
1959年大分県生まれ。2歳より大阪で育つ。京都芸術短期大学にてグラフィックデザインを学んだのち、広告や雑誌のイラストレーション・紙芝居・絵本など幅広く創作活動を続けている。東京在住。

『まいごのどんぐり』などでおなじみ！

松成（まつなり） 真理子（まりこ）さん

絵本で私ができること

透明感のあるふくよかな筆致で、主人公の心の動きを繊細に表現する絵本作家・松成真理子さん。いつもどんなことを考えながら机に向かい絵筆を動かしているのか、お聞きしました。

撮影／石川正勝　取材・文／菅原千賀子

いい子仮面を卒業できたかな

生まれは大分の国東半島、2歳のころに引っ越して、大阪で育ちました。子どものころから好きだったのは、やっぱり絵を描くこと。絵を描いてほめられるのがうれしいから。ノートのマス目にひとつひとつ違う絵をびっしり描いて、同じことをしている友だちとたまに見せあった、楽しい幼稚園時代。雨の日にアジサイのちぎり絵をしたとき先生が座っていた場所や、雨のにおいみたいなものを今でも覚えています。

小学生のころを振り返ってみると、自分の中で何かがうまくいかなくなった時期、思春期です。ソトヅラを気にしすぎの自意識過剰の悩み多き小学生。学校でいい子仮面をかぶっているから、家に帰ると4つも下の妹にケンカをふっかけてせいせいしていました。典型的な内弁慶。実は20歳ぐらいまでずっと、いい子仮面をかぶったままで、自分のいやなところを見せまいと無駄なエネルギーを使っていましたね。でも、年々どんどん楽になってきました。今では元気な幼稚園児くらいに成長しました。私のお相手をつきあっていた妹は、たぶん私を反面教師にすくすく育ち、のんびりと姉を立ててくれる文句なしの妹に成長しまして、その子どもたちがいくつかの絵本のモデルになっています。

特集 歴代受賞作品を紹介

国際アンデルセン賞

国際アンデルセン賞は、児童文学のノーベル賞として世界中で知られています。
その創設者であるイェラ・レップマンが賞に託した願い、今年3月に発表された2014年の
受賞作家おふたりの記者会見、そして歴代の受賞作家とその作品をご紹介します。

画家賞おめでとう!

ホジェル・メロ
Roger Mello

1965年生まれ。リオデジャネイロ州立大学付属の工業デザイン学校でアートを学んだのち、漫画家のアトリエで働く。絵本の制作は1990年から始め、これまでに100冊を超える絵本を発表。作品は、南米、欧米で絶大な人気を誇る。

ホジェル・メロさん 喜びの声

ブラジル人にとって大切な言葉「アレグリア(喜び)」を添えて、上橋菜穂子さんに私の絵本をプレゼントしました。今の私の気持ちは、「アレグリア」という言葉がぴったりです。

上橋菜穂子さんが、私が好きで、そして信じているテーマを扱っていることを非常にうれしく思います。たとえば、動物が人類のきょうだいであること、その神秘、ファンタジーが現実を現実以上に可能にしてくれること。そういうことを信じているところに、私との共通点を感じます。

受賞の日は、人生最高の日でした。そして、一緒に受賞したのが上橋さんという素晴らしいアーティストであったことが、この受賞を完全なものにしています。

ブラジルと日本は、地球の反対側にあり、地球を抱きかかえなくてはいけないほど遠い距離にありますが、児童文学によって地球を抱きかかえたいと思います。

メロさんへのQuestion

絵本の発想の種はどういうところから生まれてくるのでしょうか?

ブラジルは、まさに多様性の国。いろんな意味で豊かであると同時に、いろんな矛盾をかかえています。ブラジル中を旅すると、炭焼き人として働く少年、マングローブ林でカニを捕まえて生活している少年、スラムで暮らす少年に出会います。彼らもひとりの市民であり、それぞれの生活があります。人々にそういう生活をしている子どもたちがいることを知ってもらうために本にしています。いい悪いを判断するのではなく、ありのままを表し、彼らの喜び(Happiness)を含めた両面を描きたいと思います。

メロさんの作品

メロさんの作品紹介はP55にもあります

『jean fil à fil』
Editions Memo

上橋さんの作品

上橋さんの作品紹介はP52にもあります

最新刊

『鹿の王』上・下巻
作/上橋菜穂子
各1,600円(角川書店)
強大な帝国から故郷を守るため闘う戦士団。その頭であるヴァンと、移住民の間に広がる謎の病の治療法を模索する医師、ホッサル。ふたりは人々を救えるでしょうか。受賞後初の作品。

著作権保護コンテンツ

時代を遡って受賞作家をみてみましょう

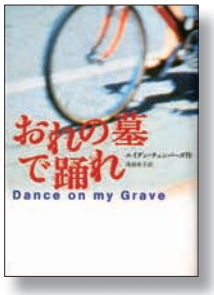
創設から1960年までは、作家のひとつの作品に対して賞が贈られていました。
その後は作品ではなく作家のすべての業績を賞するようになり、66年からは画家賞も開設されました。

2009 | 2000

2014 | 2010

作家賞

2002 イギリス
エイダン・チェンバーズ



『おれの墓で踊れ』
訳／浅羽莢子
1,600円（徳間書店）

2008 スイス
ユルク・シュービガー

『世界がまだ若かったころ』
絵／ロートラウト・ズザンネ・ベルナー
訳／松島富美代
品切れ重版未定
（ほるぷ出版）

追悼

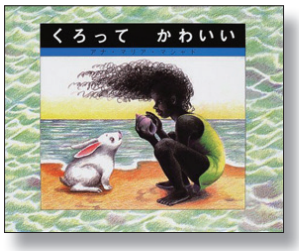
2014年9月15日にチューリヒで逝去されました。
ご冥福をお祈りいたします。

2014 日本
上橋菜穂子

『狐笛のかなた』
1,600円（理論社）　※新潮文庫版もあり

『精霊の守り人』
絵／二木真希子　1,500円（偕成社）
※偕成社軽装版、新潮文庫版もあり

2000 ブラジル
アナ・マリア・マシャド



『くろって かわいい』
絵／ロサナ・ファリア
訳／もちづきひろあき
品切れ重版未定（新世研）

2006 ニュージーランド
マーガレット・マーヒー

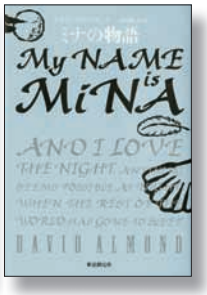
『足音がやってくる』
訳／青木由紀子　660円（岩波少年文庫）

『魔法使いのチョコレート・ケーキ
マーガレット・マーヒーお話集』
訳／石井桃子　1,600円（福音館書店）
※福音館文庫版もあり

2012 アルゼンチン
マリア・テレサ・アンドルエット

『El país de Juan』
Grupo Anaya Comercial

2010 イギリス
デイヴィッド・アーモンド



『肩胛骨は翼のなごり』
訳／山田順子　700円（創元推理文庫）

『ミナの物語』
訳／山田順子　1,600円（東京創元社）

2004 アイルランド
マーティン・ワッデル

『ねむれないの？ ちいくまくん』
絵／バーバラ・ファース　訳／角野栄子
1,300円（評論社）

『はたらきもののあひるどん』
絵／ヘレン・オクセンバリー
訳／せなあいこ　1,300円（評論社）